東京と緑

発行所
東京都造園緑化業協会
東京都渋谷区神南1-20-11
電話（03）462―2850
編集人
広報委員会

論文、随想、評論などの投稿を

本紙は、会員の皆さまのほか、従業員、その家族、造園緑化の専門家、都民一般からの投稿をおまちしています。

論文、随想、評論から詩歌にいたるまで、紙面を開放しています。とくに、人事注目の「この人を」など人物に関するものも歓迎。

原稿掲載は広報委員会におまかせください。なお、原稿は朱筆を入れたり、添削する場合もありますからご了承ください。

昭和51年度緑化政策の重点

建設省都市局長　吉田泰夫

吉田泰夫・建設省都市局長

全国的な都市化の進展に伴い、都市周辺域で開発されていた農地や森林が次第に開発されるほか、都市内においても宅地の細分化が進められた結果、都市に存在する緑とオープンスペースは急速に失なわれ、都市の生活環境は著しく悪化している。

このような建設省においては、昭和44年に都市緑化対策を打出し、都市緑化に取組むとともに、昭和47年には都市緑化の骨格となる都市公園整備五ケ年計画を策定し、都市公園整備を強力に進めてきたほか、昭和50年度から都市局に都市緑地課を設置するなど、都市緑化の積極的な推進を図ってきたが、今日、都市緑化の必要性が一段と高まってきており、今後、より強力かつ具体的な都市緑化対策を進めてゆかなければならない。このため、各都市はそれぞれの自然的、社会的立地条件に対応した独自の、特色ある緑のマスタープランを策定し、それにもとづき総合的な都市緑化施策を展開してゆくことが必要であるとの考えから、昨年の秋以来都市計画中央審議会において、緑のマスタープランのあり方について検討を願っているところである。

昭和51年度においては、審議会答申をもとに、各都市ごとに特色ある緑のマスタープランの策定を重点的に進めることとしている。その具体的施策として、第二次都市公園等整備五ケ年計画にもとづき都市公園の整備を強力に進める明けましておめでとうございます。東京都造園緑化業協会が発足以来語呂合わせを続けられていることは、ご周知の通りであります。また都の公園緑地事業に多大の協力をしていただいていることには常々感謝しております。

都民の要望に応える

東京都建設局長　難波隼象

難波隼象・東京都建設局長

東京都建設局はご承知のとおり都市構造の根幹である道路、河川、公園等の整備、改修、管理を初なうと同時に、都市防災本部の組織で都市開発事業である市街地開発事業、都市改造事業、区画整理事業を施行しております。いずれの事業においても都民が安全で快適な生活ができることを目標としていることには変りはないと考えております。すなわち、各種事業の施行にあたって快適性（アメニティ）への考慮は絶対に欠かられるべきであましょう。

さて昭和五十一年度事業の方向を定めにあたって、各事業の中に緑豊の緑化・樹木植栽・を考えることは前記の趣旨からもちろんのことであり、広義の緑化・オープンスペース行政としては、当局所管事業について見れば次のとおりであります。

都では用緑地用地として既に相当量の用地を取得しています。これら用地を整備することは、都民に対し新たなサービスを提供することになるので、既設都立公園の保全管理と共に重点的に進めてまいりたいと考えております。また都管理道路については過去数年間に渡し緑化に努めてきましたが、これらの維持管理を十分に行ない、都市におけるアメニティの保持に資することを重点としたいと考えております。このほか自然公園行政の強化、電柱撤去事業の推進、上水、多摩河川物園の施設整備等も進めるべきものと考えております。

ほか、緑地保全地区、風致地区ならびに保存樹、保存樹林の指定等による既存の緑の保全を積極的に推進することとしている。また、都市緑化のための植樹五ケ年計画を策定し、都市公園をはじめ、都市内の道路、河川、下水処理場、官公庁施設等公共公益施設の緑化を強力に推進するなど総合的な都市緑化施策により、緑豊かな都市づくりを目指すこととしている。

迎賓館の庭

藤井丈治（岩城造園）

そもそも迎賓館の庭園は、明治よりの宮廷庭園として作られたもので、その意匠を解さなければ造園をしても、何の意味もない。また国賓が国賓のホテルとして設置して使われるので、この庭の留意も必要である。また今回は建築界の元老である、村野藤吾大先生のやさしい、きびしさをもつ、風格のある入工的自然を取り入れなければならず、ここに造園家としての正念場があるのです。

門扉の黒松植栽は、その松が本館を通えて、前庭に散らばっている緩和さ、玄関庭、左右の二本のシイの大木、建物両側の大花壇、その広場を包み込む区切りと、車寄両側の緑地とまとめ迎賓館の正面としての雄大さを表わしている。

更に主庭へと進むと、南正面に大噴水あり、とうとうとして、水を放ち、美しい風をえがいて円型の池に落ちこんでいる。そこを上下に分けた放物線状の区切りが、大胆さをもって面がかれている。これで終りかと思ったら、西方上手より南の谷を通り、東へと山庭

緑の行事

新春から二、三月にかけての緑の行事をご紹介します。

神代植物園（〇四二四・八三・三〇〇〇番場）

▽おもと　展＝1月2日～7日（おもと品種五〇品新、珍品類）▽盆栽鉢作り四〇点展示します）

▽ふくじゅそう展＝2月1日～8日（冬の花ふくじゅそう品種紹介）▽梅展＝2月7日～15日（盆栽鉢作り約五〇点）▽第三十八回家庭園芸講座＝2月8日午後1時から「ばら作りのこつ」講師・徳川一八〇春蘭展＝2月20日～29日（春蘭品種紹介）▽第三十九回家庭園芸講座＝2月21日後1時から「洋らんの楽しみ方」講師・小田善一郎

公園緑地部管理課事業係（212・5111内線2998）

▽春木苗木即売会＝三月中旬～下旬（低廉な即格で苗木の提供します）

委員会などの動き

（9月7日から11月30日まで）

【第五回広報委員会】（9月17日）

第一号機関紙発行についての反省と、第二号編集についての討議。

【企画委員会】（9月22日）

①都市管理技術検定対策について協会員の技術検定は協会員の組織の強化、②昭和50年度「都市緑化月間」に協賛する行事について＝建設省の主催する都市緑化月間の各行事の性格の検討と協会として協賛すべきか、するとすれば、その方法は＝などにわたって関係方面の情報を参考しながら討議した。その結果、次の事項を決定、「都市緑化月間」中に協会として実施すべき事項などについて検討。

【第四回企画委員会】（9月22日）

十月定例理事会提案議題を検討、十月定例理事会提案議題を検討、「都市緑化月間」に協会として何をなすべきかを検討した。

【第四回渉外委員会】（9月22日）

都民を対象とした講演会の実施と、来月一ヶ月間実施の「都市緑化月間」に協会として何をなすべきかを検討した。

【積算実務講習会】

九月二十七日、九月二十八日の二日間二〇〇名を対象に実施した。

【企画、渉外合同委員会】（10月1日）

①緑化相談と苗木無料配布の会の終了後の処理について＝この件については、すでに今月十八日、二十日の両日、日比谷公園で開催、成功裡に終了したが、左記の項目を討議した。

▽関係方面に対礼、挨拶の順序と方法▽会計報告の承認と割賦の決定▽実施についての反省。

②会員名簿の作成について＝協会創立後、若干の時間を経過し、創立時の当然の経緯として会員の移動が若干あるので、名簿を作成し、会員と関係方面に配布したい▽体裁はシート式とする▽員外役員の記載はするが、特に役員名簿は添付したい、などを討議した。

③協会役員の中間報告について＝可及的上、三月の理事会に報告すべく、会計上の処理を行うことを討議した。

④神代植物公園15周年記念行事の協賛について＝協会の趣旨から有意義と認め、協賛する方向で検討または実行の委員会を設けることを討議した。

【第六回理事会】（11月6日）

各委員会活動状況を報告の後、①苗木配付の際の経費を出席②会員名簿作成について協賛の件③東京都造園緑化業協会の十五周年記念行事について＝新堀熊男氏が退五等諸委員を委嘱され、披露をされるので、協会では先ず記念品代を贈ることを討議した。

【第六回渉外委員会】（10月27日）

十一月定例理事会議題について検討した。名簿の作成、当協会臨時総会、新年号あるので紙面二面を増し、一面を別交換の意味で会員名簿を載せ、一面を賛助の広告でうめることを理事会に諮って決定することを討議した。

【座談会開催】（11月15日）

「東京の街路樹」をテーマとする座談会を北九州緑化委員長会で開催した。出席者次の通り。

東京都建設局道路部　斉藤氏
東京都緑化センター　堀口氏
建築家　菊竹哲士氏
建築家　浜崎　弘氏
副主幹　林崎氏
官都市道路公園部　遠藤家　浜崎　林崎氏　蛭田　哲氏

【第五回広報委員会】（9月17日）

①「都市緑化月間」に協会として何らかの行事を行なう場合の、行事内容などの検討をした。

【第五回理事会】（10月7日）

各委員会の活動状況報告のあと「都市緑化月間」中、苗木無料配付と緑化相談の会を東京湾岸の各地で、協会の理事、委員の協力を得て、十月十八日、十九日、二十日の三日間、日比谷公園で開催、成功裡に終了したが、左記の項目を討議した。

①緑化相談と苗木無料配布の会の終了後の処理について＝この件については、すでに今月十八日、二十日の三日、日比谷公園で開催、成功裡に終了したが、左記の項目を討議した。

②会員名簿の作成について＝協会創立後、若干の時間を経過し、創立時の当然の経緯として会員の移動が若干あるので、名簿を作成し、会員と関係方面に配布したい▽体裁はシート式とする▽員外役員の記載はするが、特に役員名簿は添付したい、などを討議した。

③協会役員の中間報告について＝可及的上、三月の理事会に報告すべく、会計上の処理を行うことを討議した。

④神代植物公園15周年記念行事の協賛について＝協会の趣旨から有意義と認め、協賛する方向で検討または実行の委員会を設けることを討議した。

【第六回理事会】（11月6日）

各委員会活動状況を報告の後、①苗木配付の際の経費を出席②会員名簿作成について協賛の件③東京都造園緑化業協会の十五周年記念行事について＝新堀熊男氏が退五等諸委員を委嘱され、披露をされるので、協会では先ず記念品代を贈ることを討議した。

【第六回渉外委員会】（10月27日）

十一月定例理事会議題について検討した。名簿の作成、当協会臨時総会、新年号あるので紙面二面を増し、一面を別交換の意味で会員名簿を載せ、一面を賛助の広告でうめることを理事会に諮って決定することを討議した。

【第六回企画委員会】（10月27日）

①緑化相談と苗木無料配布の会の終了後の処理について＝この件については、すでに今月十八日、二十日の三日、日比谷公園で開催、成功裡に終了したが、左記の項目を討議した。

②協会役員の中間報告について＝可及的上、三月の理事会に報告すべく、会計上の処理を行うことを討議した。

③東京都庁住宅局との懇談について検討した。

【第六回広報委員会】（11月14日）

「東京と緑」の編集会議を開催、二面、三面に「東京の街路樹」をテーマとする座談会を載せ、新年号あるので紙面二面を増し、一面を別交換の意味で会員名簿を載せ、一面を賛助の広告でうめることを理事会に諮って決定することを討議した。

【第六回渉外委員会】（11月14日）

「東京と緑」の編集会議を開催、二面、三面に「東京の街路樹」をテーマとする座談会を載せ、新年号あるので紙面二面を増し、一面を別交換の意味で会員名簿を載せ、一面を賛助の広告でうめることを理事会に諮って決定することを討議した。

農協の全国組織を活かした
豊富な樹木の販売
全国農業協同組合連合会
全農
全農東京緑化事業所
〒815
本所　〒101　東京都千代田区天手町一ノ三ノ一三
農産花き課（03）279・0211（代）
270・5925（直）
東京都国分寺市日吉町一ノ三ノ一一
電話　0423・24・7111～2

新春座談会　〝東京の並木〟を考える

本日の座談会のテーマは、〝東京の並木について〟、まあラフに申すならば、街路樹のよもやま話とも申しましょうか、気楽な気持でお話を願いたいと考えております。

ではまず、最初の切り出しとしまして〝あなたの好きな並木と、その理由などについて〟お話を伺いたいと思っております。

印象強い絵画館前

菊岡　東京の町で並木というとも非常にありきたりかもしれませんけれども、神宮の絵画館前の並木が、印象の強さから言っても一番だと思います。

春の茗荷谷

それからもう一つは、春の景観を見せる茗荷谷でしょうか。桜並木がございます。何年になるか、ちょっと木の樹齢はわかりませんけれども、非常に大きな桜並木で、数少ない東京の春の並木としては、非常にすばらしいじゃないかと思っております。

並木道といいますと、かなり長いものを想像するんですけれども、東京の場合は距離が非常に短いんですね。世界中に範囲を広げさせていただければ、一番印象に残っておりますのは、ヘルシンキの港に面したメーンストリートでしょうか、エスプラナードというあの並木道が、何といいましても一番印象が深くて、情緒がございます。ヘルシンキという町は、昼間が非常に短い。夜明けが午前八時か九時と遅いわけです。そのころにあそこを歩きますと、秋の初めのころでも、非常に物悲しいような冬の景色なんです。ただ、気温の関係で、葉はまだいっぱいついておりまして、そういう情景がたいへん印象に残っております。

迎賓館前の並木

柴沼　私は都内の街路樹整備担当ですが、一般都民からしてみれば、何か並木にもってひとつ道路を特徴づけたらどうか、という私の念願の気持がありましたのを、無理いたしまして、中野から渋谷、あれは中野通りというんですが、あそこにエンジュばかりの並木をつくったんです。これは、延長約三㎞ばかりあります。終戦後の関係で実を言うと、苗木も都の苗圃にエンジュぐらいきりなかったんです。特にあそこをやったというと、私の一つの遺産と言っちゃ申しわけありませんけれども、非常に印象づけられる並木できいます。

ほかには、先ほどお話のありました神宮外苑のイチョウの並木だとか、あるいは東大の前のイチョウ並木だとか、各所にありますね。

新堀林栄氏

エンジュの中野通り

新堀　個人的な意見としましては、ずいぶん苦労した並木があるんですよ。現職当時、どの道路が何という通りかわけがわからない。一般都民からしてみれば、何か並木にもってひとつ道路を特徴づけたらどうか、という私の念願の気持がありましたのを、無理いたしまして、中野から渋谷、あれは中野通りというんですが、あそこにエンジュばかりの並木をつくったんです。これは、延長約三㎞ばかりあります。終戦後の関係で実を言うと、苗木も都の苗圃にエンジュぐらいきりなかったんです。特にあそこをやったというと、私の一つの遺産と言っちゃ申しわけありませんけれども、非常に印象づけられる並木できいます。

ほかには、先ほどお話のありました神宮外苑のイチョウの並木だとか、あるいは東大の前のイチョウ並木だとか、各所にありますね。

一番大事な下枝

蜂田　私は工事をやるほうで、街路樹というものに対しましてはさほど関心を持っておりませんでしたけれども、日本で、世界に冠たる街路樹というと、何といっても国会議事堂前のプラタナスですね。

普通一般的な考え方で、あの街路樹はいい、あの並木はいいというのは、自然の姿のままを大きくしただけなんですね。国会議事堂前のプラタナスは、高さは四メーター五十ぐらいに制限して、幅を三メーターぐらいにちょっと抑えて、えいえいと手入れされた木というのは、一つの風格があると思うんです。

国会議事堂前

いま民間に移管されておりますけれども、昔は東京都で街路樹をやったわけです。そのときのやり方というものは、現じまで継承されておりませんけれども、非常にうるさかった。街路樹に一番大事なのは下枝、その下枝が折れた場合の手間をつくっており、それから、切り口を見せるなというやり方。これは、日本古来の盆栽の技術につながってるんじゃないかというようなことで、私は国会議事堂前のプラタナスを、日本の街路樹として推薦したいですね。

私はそう方々に行ったことがありませんけれども、台湾なんかに行くと、マンゴの街路樹があるんです。収穫期になると、非常にみごとに実がなる。それを久礼かけて、それで道路を補修しているというんですね。「これがとるやつはいないのか」と言ったら、そんなことはないんですね。「これがとれるんだ」という話できいますけれども、いま日本は残酷に取り扱う向が強いんですね。もうちょっと大事にしたらいいと思いますね。

日本で、実がなるというのは、八王子の桑の街路樹ぐらいのものじゃないですか、プラタナスなって実がなるけれども、食べられる実じゃないからね。

新堀　実は、あれも私の提案なんです。御承知のとおり、八王子は桑都というでしょう。それをやったんですよ。

右から柴沼氏、菊岡氏

司会　織物の産地ですからね。

新堀　立川の農業試験場に行って、桑の品種を選定してもらってところがなかなか入手できなくて東京で苗木をあっせんしてくれたんですよ。朝日新聞で出した〝並木〟というたびも出てきます。

司会　日本でも珍しい街路樹ですね。

二重橋前の並木

宮崎　いままでお話が出ました表参道とか、国会議事堂の周辺とか、あるいはお堀端とか、私もそんなところが好きなんですけれども、特に私はケヤキなり、イチョウなり、こういうものの並木が好きなんです。そういう意味で、実は都庁に通ってるときに、地下鉄の二重橋前でおりますと、イチョウの並木がでんと控えている。夏の真っ盛りなんかは、その日陰を非常に気持よく通らしてもらってるわけです。もしあのイチョウの並木がなかったならば、あそこらへんの雰囲気との調和といいますか、非常に殺風景なものではないかと、かねがね考えております。

表参道のケヤキ

司会　私が一番好きな街路樹と申しますと、菊岡先生がおっしゃった絵画館前の大イチョウの並木ですね。非常に雄大な空にそびえてしげっておりまして、春は青、夏は夏、秋は秋、冬は冬、それぞれ春夏秋冬の変化を見せるんですね。私、七年間ほど青山に店舗を張っておったもんですから、よく朝夕の散歩したものです。隣にいらっしゃる高原さんは、神宮表参道のケヤキの並木が大好きだと申しておりましたね。あのすばらしい装いのケヤキによって、いま日本でも有名なファッションの町づくりになって、街路樹の効果は偉大だと、高原さんは絶賛してるんですよ。

私、外国のことはよく知らないんですが、たまたま北京に戦前まる四年ほどおりまして、シータンパイロとかいう、一番いいところへ行ったんですけれども、チーナンハイ公園、チーハイ公園なんてありまして、あそこの街路樹が全部アカシア並木なんですね。これが全部頭をとめてありまして、舗道にかぶさってる。ちょうどテカシアのトンネルですね。私ども戦争が終わったら、北京にいたいと思ってたことがあります。それほどすばらしいもののですね。

一番最初の並木

では次に、並木の歴史についてお願いしましょう。東京で一番最初に植えられたところはどこだとか、あるいは樹種はどんなものとか。柴沼主事が来ない、まずお願いします。

柴沼　東京市道路史というのがあるんですが、記録を見ますと、やはり銀杏が最初だった。明治五年に松と桜を植えたというような記録がございます。

その後、十年ぐらい過ぎてから松と桜がよく育たなくて、柳に植えかえ、えたという記録ができます。それは、街路樹にいろいろな格的なことではないんです。

いわゆる並木として本格的にやったのは、明治八年五月、大手町のいまの内堀通りですが、あとこに、津田口に入がニセアカシアを外国からもってきて植えた。いまでも、並木の始まりというような碑が立ってございます。いまはエンジュになっておりますが、それが一番最初だったというように聞いております。

それから、いろいろいきさつがありまして、もっと改良しなくてはいかんというようなことで、明治四十年ごろから本格的に拡張をつくりまして、年々ふやしていった。そのころに植えたものでは、先ほど緑専務のおっしゃった都庁前のイチョウですね。あれは、明治四十二年に植えたという記録がございます。そのころ、十二万五千本ぐらいになっていた。その後、二回ほど、並木の危機があったわけです。関東大震災、これで大分やられて、半分ぐらいになってしまった。それからもう一つは、戦争です。

環境整備に重点

つい最近になりまして、昭和四十年ごろから地下鉄工事がふえまして、それに伴って、植えかえやらなんかが盛んにされております。従来のような都市景観とか、美観とかいうよりも、それも大事ですが、環境整備ということで、たいへんかをえいまして、最近では、年々数千本ずつ植えるということで、戦前、戦後を通して、数としては一番実践できた時期ではないか。現在では二十四種類ぐらいに増えて、九万四千本というような数になっております。これは、都の管理する街路樹でございます。

落葉樹が原則

新堀　街路樹の管理規定ができたのは昭和二十九年ですね。管理規定といっても、都民が街路樹をかわいがる、そういう意味の規定なんですね。その当時は、樹列が十四㎞、しかも落葉樹が原則。それから、同じ道路の狸穴、あの通りにタイサン木を植えたんですよ。それからさらに、赤坂のアメリカ大使館の中分離帯にハナミズキを植え、両側に桜を植えたんです。日米花の交換会やった。これまた評判もなく、今日では流行遅れとなってしまった。

北見功氏

もう一つ、例の白髭橋の手前にガス工場がありますね。白髭通りというんですが、あそこに桜を植えたんですよ。ちょっと自慢したんですけれども、私は、東京の並木は落葉樹一辺倒じゃ駄目だと思っている。日米花の交換会やった。これまた評判もなく、今日では流行遅れとなってしまった。

もう一つ、例の白髭橋の手前にガス工場がありますね。白髭通りというんですが、あそこに桜を植えたんですよ。ちょっと自慢したんですけれども、私は、東京の並木は落葉樹一辺倒じゃ駄目だと思っている。日米花の交換会やった。これまた評判もなく、今日では流行遅れとなってしまった。

ああいう工場地帯は常緑樹であっていいんじゃないか。こう考えてやったんです。しかし、いずれもみごとに失敗しました。いま跡形もないですね。ことにいまのガス工場のコンクリート塀に沿ってはプラタナスがちょうど茂って、立派な並木になってますね。

蜂田　いまのタイサン木は私が植えたんですよ。（笑い）ひどい目に遭って、植えても植えても枯れちゃう。二十七本か、そのうちで一つ残ったことは、水を一切くれないでやることを考えついた。それで大分助かりましたけれども。

新堀　だけど、時代が変わりまして、いまは落葉樹の並木ということが重要視されてますね。

【3面につづく】

出席者（ABC順）

菊岡　皆子氏（社会設計家）
蛭田　貫二氏（㈱柴田植物園社長）
新堀　林栄氏（首都高速道路公団嘱託）
宮崎　秀之氏（東造緑協・事務理事）
柴沼　弘氏（東京都建設局街路樹担当副主幹）
高原　栄重氏（東造緑協・広報委員長）
清水　準一氏（東造緑協・広報委員）
鈴木哲次郎氏（東造緑協・事務局長）

司会
北見　功氏（東造緑協広報副委員長）

◆新装開店◆
どちらをお好みですか？
（2F）パブレストラン チャックワゴン（三四一）〇〇七五
（8F）和風パブ 炉端焼 ちらん（三四六）二四四一
新宿西口サンフラワービル
日東エンタープライズ（株）

業界一
造園用黒土販売
◎多少にかかわらず販売致します。
東京都世田谷区玉川台1-16-9
株式会社 金島商店
代表（七〇〇）三七七五
夜間（七〇〇）〇四一〇

枝木、残材、残土、ガラ
収集、運搬、終末処理
（有）丸利根産業
〒101 東京都三鷹市大沢四-八-三三
電話〇四二二（三二）九〇八七

味と楽しさを包んで…
幕の内弁当 350円より
すきやき弁当 450円
お弁当のしんえい
でんわ984-6271

【2面からつづく】

手入れは日本だけ

蛭田 日本だけじゃないですか。街路樹を、きちんと手入れしてやってるというのは。ただ、刈り込みはやるかもしれませんけれども、風格というか、そういうものを工夫がわず、子々孫々まで残しておこうと考えて手入れしてる国は、日本だけじゃないでしょうかね。

司会 シャラは水気のある温度の多いところでないとね。

新堀 地元の優情で、水をやるとか、愛護の手を伸ばしてくれれば成功したんですよ。

司会 工場地帯に植えた植なんかは成功しそうなようなものですがね。

新堀 当時植の並木をつくるバカがいるかと、大反対を受けたんですよ。それでも、私はかつて長崎に十年暮らした経験がありますので、植で名常緑樹の代表だというわけですね。それで、専売局に交渉して、苗木をもらって、水元の苗圃で育成して、それができたもんですから、移植した。ところが、当時のことですから、愛情が欠けたんですね。あれが成功していれば、もう何年になりますね。

宮崎 クスはいいですね。この街路樹を植えて、一立方にきちんと四角に掘ってあって、そこに全部黒土が入っておりまして、控木なんかもネカガが、ちゃんと入ってましたよ。そういうことで、コンクリートのあるところにぶつかると、こわすのにとにかく三日も四日もかかったんですよ。

ですから、震災後に復旧した街路樹というものはきちんとしている。表参道のケヤキも、東京でも有名なケヤキ並木ですけれども、たしか大正七年か、八年だろうと思うんです。それが、大東亜戦争で焼けちゃいまして、上のほうだけ残った。

新堀 三分の二はられたでしょうね。

蛭田 あのとき、あそこにちょうど春日さんの店があったんですね。それで、春日時夫さんがたしか寄付したんですよ。それが、現在ちゃんとなってる。だから、街路樹がいいということは、何とかよくしてもらうという人がいたために、今日いのこれが残ってるんじゃないかという気がしますね。

高原栄重氏

新堀 あればイスクス、タブって言うんですよ。

蛭田 千鳥ケ渕なんかも先生のあれでしょう。クスを植えたのは。

新堀 あれは成功したでしょう。これまたいわくがあるんですよ。公園で換気塔を六ヵ所つくったんです。高さが四メートル以上ありますね。あそこは英国大使館があるでしょう。換気塔から音が出て、大使館に対して申しわけないんじゃないかというあれがあって、かなり試験を重ねたんですが、どうしてもつくらなきゃならぬ。それで、換気塔を中心として、クスを植えて、将来はクス並木と、こういう構想で、あれは公団の金でやったんです。

蛭田 あの前は非常にいい桜があったんですよ。それをみんな公団さんが切っちゃった。

新堀 あの桜は移植がきかないから切ったんです。移植のきやつは金部反対側に移植したんですよ。当時は大新聞がたたきましてね。公団ひどいことをするとね。

蛭田 あれはお花見用だったんですね。

新堀 そうなんです。それも、工期の関係で、まさにあと三日待ては満開になるというときなんです。やられましたよ。あれは。

司会 どうもいい話で……。

次は、並木の効果とか、植え方とか、技術的な問題などについてお話を聞きたいんですけれどもいろいろ考え方なんですね。

都市の構造的形成

菊岡 私、建築的な立場から、いつも考えることが、ごまいます。やはり街路と、そこに街路樹があって初めて、都市が構造的に形成されると思います。その考え方からいきますと、東京都の場合、容積制限というのがございます。容積制限の目的というのは、周辺土地を効率的に利用しつつ、周辺土地を有効に利用しつつ、道路を進展していくという考え方なんですけれども、悪い利用になりますと、駐車場にしてしまうということがございます。

建築家の部としても、道路とか都市の中の緑というものに対しては関心を払っておりまして、できるだけその景観を損なわないようにしていきたい。そういうふう念願しているわけです。ところが、市街全体を一つの建築事務所なりが受け持つ場合でしたらよいんですけれども、一軒の建物だけを建てるとなりますと、その周辺との調和というものが非常にむずかしくなってくるわけです。古くから並木などがありますと、新築した建物の前もそれにならって、木を植えていくということが原則なわけです。逆に、そこまで市街が整備されていないような場合、まわりは住宅地であったり、古い町並みであったものが、急に鉄筋コンクリートの巨大な建物が建つということで、非常に景観を損ずるというような考え方が強いわけです。そこへ市役所などから全面的に街路樹を植えてくれないかというような条件を出される場合が、近年多くなってきました。そうしますと、オーナーのほうとしてはどうしても建物を建てたいからということで、その条件をのわけですね。要するに、その街路樹を植える費用を負担するわけです。建築主のほうからいますと、非常な負担になるわけですけれども、建物と環境の調和というものを考えますと、非常にいいことではないかと思うんです。

右から新堀氏、蛭田氏

それで、お互いに建物とか、それから既存の市街が一緒になって協力しあっていけば、一つの町づくりといいますか、浮け合うような環境ができるのではないかと思います。そういうふう思って、協力して全体を一つの建築事務所なりが受け持つ場合でしたらよいんですけれども、一軒の建物だけを建てるとなりますと、その周辺との調和というものが非常にむずかしくなってくるわけです。古くから並木などがあるところで、新築した建物の前もそれにならって、木を植えていくということが原則なわけです。逆に、そこまで市街が整備されていないような場合、まわりは住宅地であったり、古い町並みであったものが、急に鉄筋コンクリートの巨大な建物が建つということで、非常に景観を損ずるというような考え方が強いわけです。そこへ市役所などから全面的に街路樹を植えてくれないかというような条件を出される場合が、近年多くなってきました。そうしますと、オーナーのほうとしてはどうしても建物を建てたいからということで、その条件をのわけですね。要するに、その街路樹を植える費用を負担するわけです。建築主のほうからいますと、非常な負担になるわけですけれども、建物と環境の調和というものを考えますと、非常にいいことではないかと思うんです。

司会 私も建築の住居方とよく交流していただいておりますけれども、いつもそういう問題につきまして苦労しております。例を挙げると、新宿の副都心などは特に緑景意識が強いというかそれぞれ違った雰囲気が出てきているようで、気はしておりますね。

柴沼 私ども去年の五月に、街路樹等調査委員会というものを設けまして、どうしたら街路樹が整備され、もっと大きく育てることができるか、学者、経験者に集まっていただきて協議してるんですが、その中間報告があり、そのとき、新聞の報道を見出しが〝街路樹、並木、美観から必需品へ〟という言い方。これは一言で言いあらわしてるんじゃないかと思うんです。緑陰とか美観というようなことで、いままで考えられていたんですが、だんだん公害が激しくなったり、あるいは格に言うコンクリートジャングルになった都市へ少しでも自然を投入し、緑を多くしようということで、街路樹というものが見直されてきた。

公園と街路樹

特に意識調査の中でもあらわれてきてるんですが「都市の中に緑の部にもう一本並木をつくってるんです。また植えたって小さいものですけれども、そこだけが二重並木というような形で、角地なんですから非常に目立ってくるわけですね。何十年もたったときには、非常にいい景観を呈するんじゃないかと思います。

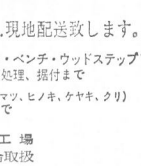
街路樹を見直す

司会 公園というのは拠点的にあるわけですが、道路というのは市のすみずみまでいきわたる。しかも東京の区部においては道路率三三・一％というような大きなウエートを占めてる。公園の比率は一・七％。それだけ緑化を取り入れる空間としては、大きなものがあるということですね。

道路景観の考え方で言いますと交通を円滑にする機能がある。効果があるというようなことを言うんです。車の反射光を防ぐだり、あるいは効果としてはかなりとも多少なりとも防音、あるいは排気ガスなどを防ぐ。あるいは精神誘導というようないろんなことを言っております。そういうふうにこの並木に期待する効果がだんだん時代とともに変わってきた、ということが言えるかと思います。

舗道緑地帯を

それから、植栽形式とか技術なんですが、そうなりますと、いきおい植付方法を変わってくるわけで八メートル間隔にぽつんぽつんと植えていた並木だけではだめだと考える。さらに、先ほど蛭田先生もおっしゃいましたが、常緑樹をその中へ加えるべし、あるいは桜木、中木、高木、多層の植栽をして厚みのある常緑の緑がほしいとうようなことで、実はいま東京都で力を入れてるのは、舗道緑帯と申しまして、車道と歩道との間に帯状の緑地をつくるというようなことと、いわゆる街路樹のほかに、低木類あるいは中木類も入れるというようなことをやっております。



宮崎秀之氏

技術的な諸問題

次に、技術的なことを言いますと、植栽が小さいとか、あるいは反射熱で高温になる、あるいはとくに夏のように水分が不足するというようなことで、並木の育つ環境としては非常に悪い条件なんですね。それらをどうしてもやるためにで、できるだけ工夫をなくする、樹を大きくする。あるいはいま研究しておりますが、水がしみ通る舗装を開発する、あるいは空気が通りやすい舗装ですね。そういうようなことも考えておりますね。

それから、大の種類につきましても、これではだめだ、ということではなくて、先ほど二十四種類と申しましたが、二十四番目は、実を言いますと、その他という種類でございまして、いろんなものが使われております。また、限定されるべきではなくて、やはり条件に応じて、画一的でない並木をつくるということではないかと思います。

蛭田 いい知恵、じっくりとやしをやって、それぞれ考えなれ、それぞれ考えなれとそれを排気ガスにおおられて、それから前に金属製の板をみんなおっかぶせてしまったでしょう。それで、平板をどっちゃいまして、簡易舗装にしちゃった。そうすると、一メーター五十前後のさざ樹でしかも水分を吸収することができない。非常に憂慮されている。そういうことから、路傍植栽といいますか、土や何かを入れるようになりましたけれども。

代官町 山桜があるんですよ。あれは、東京でも珍しい街路樹じゃないかと思うんですが、あそこは大型が通るためにいつも枝を折られちゃう。これは何とかしなくちゃいかんのじゃないか。交通関係するわけにいかんから、植樹を広くしたらどうか。

菊岡 先生がおっしゃってたように、建築との調和、あるいはそういうものとのからみでございますが、住宅街、ビル街、あるいは工場地帯というものは少しも同一の並木ではないわけです。そういう点は、それぞれふさわしいような並木をつくるということだろうと思うんです。

新堀 いま植樹の樹は改正したんじゃないですか。

柴沼 いまは八十センチ、横方向に細くしまして、長さ、二メーター八十センチ。ですから、一つが一・六平方メートルですね。前は二平方メートルくらいですが、そのくらいにふやしてます。

蛭田 菊岡先生がおっしゃったように、建築との調和、あるいはそういうものとのからみでございますが、住宅街、ビル街、あるいは工場地帯というものは少しも同一の並木ではないわけです。そういう点は、それぞれふさわしいような並木をつくるということだろうと思うんです。

新堀 いま植樹の樹は改正したんじゃないですか。

柴沼 いまは八十センチ、横方向に細くしまして、長さ、二メーター八十センチ。ですから、一つが一・六平方メートルですね。前は二平方メートルくらいですが、そのくらいにふやしてます。

蛭田 いい知恵、じっくりとやしをやって、それぞれ考えなれ、それぞれ考えなれとそれを排気ガスにおおられて、それから前に金属製の板をみんなおっかぶせてしまったでしょう。それで、平板をどっちゃいまして、簡易舗装にしちゃった。そうすると、一メーター五十前後のさざ樹でしかも水分を吸収することができない。非常に憂慮されている。そういうことから、路傍植栽といいますか、土や何かを入れるようになりましたけれども。

代官町 山桜があるんですよ。あれは、東京でも珍しい街路樹じゃないかと思うんですが、あそこは大型が通るためにいつも枝を折られちゃう。これは何とかしなくちゃいかんのじゃないか。交通関係するわけにいかんから、植樹を広くしたらどうか。

【4面につづく】

年頭所感

太田和男会長

太田和男

（東京都緑化推進委員会・会長）

新年おめでとうございます。いまさら申し上げるまでもなく私達は、美しい日本の自然を都市に住む居住者に、お届けする事また、社会的には非常に大切な仕事をしています。

誘がかわりますが過日、過ぎ去るが懐かしく、武蔵野を歩いてみました。

朝霧が秋草を濡らし、黄色や朱やエンジに色づいたソロ、カエデ、クヌギ、コナラなどがやわらかな日射を浮けて華やかに照り映えていました。杉、黒松、アラカシなどを背景にして自然が奏でる影の舞踊会のようでした。

風もないのに落葉がハラハラと散り、小鳥が鳴いたように飛立つ。その秘やかな消音は大地の息づきの証しのようでした。

都市の中の自然は、このように美しいばかりでなく、害や公害の防止のために重要な役割を果たしています。

私達は、都市の中の自然の重要さをもっと声を大きして訴え、自然の摂理に従いながらもっと安価に提供する義務があります。

とくに、この東京の現実は、建築物や道路や鉄道が輻輳をきわし、経済性や能率性を追求することに傍若無人です。これらの施設は、どう説明してみても本質的にそうした性格が内在しているのでやむを得ないことです。

しかし、都市が健全に発展し、人々が幸せな生活を送るためには、それだけでは不十分であることは周知のとおりです。

私達は、土木や建築の方々と肩を並べ、社会的に十分な地位と発言力と実行力を備えなくてはなりません。それが、社会の要請に応えるただ一つの方向であろう。

そのために行うべき事柄が山積しています。紙数の都合もあって一つずつ説明するわけには参りませんが、積重と相談しながら力合せて、一歩一つ確実に前進させて行きたいと考えています。

昭和五十一年の年頭にあたり、いさぎよく潔祓し、期待するところを申しとげ、ご挨拶といたします。

C.C.A 加圧防腐処理木材

利点
- 耐久性 腐れ、シロアリ、キクイムシなどの被害を完全に防ぎます。
- 強度 曲げ、圧縮などの強度を低下せず、何時までも強さを保ちます。
- 外観 淡緑色で、触っても汚染されません。
- 加工性 切断や切削加工は素材と全く同じです。
- 塗装性 上塗り、ペンキ塗りなどの塗装も自由に出来ます。
- 経済性 寿命は素材に比較して3－5倍長持ちしますから使用後の取換え工事や無駄な費用が不必要で経済性が優れております。

植栽用支柱 全規格品在庫豊富、現地配送致します。
公園用材 ●ロープ木柵・パーゴラ・ベンチ・ウッドステップ その他木材加工、防腐処理、据付まで
木煉瓦 C.C.A.クレオソート油注入（マツ、ヒノキ、ケヤキ、クリ）製造、販売、責任施工まで

日本住宅公団指定工場
東京都造園建設業協同組合取扱
阪神造園建設業協同組合指定工場

日本木材防腐株式会社
〒559 本社・工場 大阪市住之江区平林南1丁目7番63号 06（685）0635
〒167 東京出張所 東京都杉並区天沼3－10－11 03（391）3624

日本住宅公団 東京都住宅局 指定工場
▼営業品目▲
造園 土木 金物工事
合 丸山製作所
本社工場 〒136 東京都江東区亀戸五－三八－三一 TEL（683）4340・4345
第二工場 〒136 東京都江東区亀戸七－五－一 TEL（681）0922
金網・鉄柵製造 各種ベンチ 金網製フェンス 各種網籠

庭園めぐり ②

田中正大

清澄庭園 上

岩崎弥太郎の設立した三菱会社は、明治政府のあつい保護をうけて、我が国の海運を独占した。西南戦後、この年間の石山切絵図によると、岩崎が所有した土地は東半は久世大和守の下屋敷、西半は伊奈左衛門、松平美濃守の屋敷の名がみられる。久世大和守南戦後ここで、海上王の名が高くあらわれた明治十二年、隅田川に近い左岸の土地を購入、大庭園を造った。弥太郎の死後、三菱は下総国の関宿で、七万石の城主であった。ここには、大きい池をもった庭園があったようだが、大改造して、深川親睦園と命名、貴紳の接待と三菱社員の慰安、すなわち、当時流行した園遊会場としたものであった。弥太郎は趣味も小庭を築造したことがあり、庭園には特に趣味をもち、自ら設計、指示したといわれている。弥太郎は、同時に六園を購入していることから、その財力とともに、庭園趣味の深さもうかがわれる。大池であった。これは戸山荘の池つた庭園があったが、大改造の後、東半の日本館を中心とした部分と、西半の日本館を中心とした部分にわかれるが、池は両方につづき、東西三〇〇メートルにわたる複雑な形と島をもつた庭は、決して好感のもてるものではないが、庭石の勉強にはいい場所である。

この庭園も大正三年の関東大震災の被害をうけ、三年ぐ改造されることになる。家屋の密集した下町にあって、周辺の被災者が庭園に集まって、生命を全うした者

三菱の園遊会場に

（五〇〇坪）には及ばないにしても、松平定信の浴園に匹敵する、最大級の庭園であった。水は隅田川より引き、庭石は関東山、仙台堀川という地の利と、海運を利用した物資輸送の利をもち、全国から名をあつめた。これでもか、これでもかとえらびあつめ明治十八年、弥太郎のあと、三菱会社をついだ弥之助は、磯貝宗唐の設計で大改造を行い、鴨池は下総国の関宿、七万石の城主であった。ここには、大きい池をのこした戸山時代色を一掃して、明治の庭園をつくった。西半の洋館を中心とした部分と、東半の日本館を中心とした部分にわかれるが、池は両方につづき、東西三〇〇メートルにわたる複雑な形と島をもつた庭は、決して好感のもてるものではないが、庭石の勉強にはいい場所である。

この庭園も大正三年の関東大震災の被害をうけ、三年ぐ改造されることになる。家屋の密集した下町にあって、周辺の被災者が庭園に集まって、生命を全うした者

一万数千人であったという。個人の庭園、社員や貴賓にしか開放なかった庭園が、都市災害に遭遇以上に有効なことを立証した。震災復興の都市計画がなされる中で世にいう鳴海公園を立案した。岩崎家は庭園の東半分を東京市に寄付した。大庭園の中央部を陸北に道路敷賃通の要望にこたえて、東半分は庭園の東半分を東京市に寄付した。大庭園の中央部を陸北に道路敷賃通

業界かげの功労者

鈴木哲次郎氏

造園業界の女房役として永い年月私心を忘れ、貴献してきた人――その人は鈴木哲次郎氏（元・東京都造園建設業協同組合事務理事、現・東京都緑化業協会事務局長）です。

鈴木氏は昭和四三年三月、日大専門部法律科を卒業、東京都庁には昭和二年五月に就職、屋間は働らき、夜は学校に打ち込み、大学を卒業しています。

その後、昭和二十五年十二月、東京都造園建設業組合理事長（現・東京都造園建設業組合理事長）の推薦で、昭和三十八年四月、当時、任意組合だった「東京都造園組合」に就職しました。

当時、造園界は、まだ封建的なムードがぷんぷんとしていた時代で、組合員達は今ほどなき機構・東京植木の社長。その後、時代の要請や組合員たちの与論がもちあがって、協同組合に脱皮へ――。その頃、鈴木氏は多事多忙で、協同組合に設立準備のために奔走、三月三十九日、東京都造園建設業協同組合として認可をうけることができ、鈴木氏の多大な努力のおかげであるし、いまも高く評価されています。

その後、四代にわたる理事長の補佐役として活躍、その間の苦しみは「喜びも悲しみも幾星霜」の言葉につき、その間豪情しい温厚と真面目な性格が鈴木氏を救ってきたと思います。

現在、東京都緑化業協会の事務局長として手腕をふるっています。（K）

編集雑記

○・機関紙も順調に進み、第三号の「新年号」発刊ときつけました。皆さまのご協力のおかげと感謝しております。

○・専門家の意見も結構ですが、今回は主婦を交えての座談会を試みました。また人物欲地します。

○・会員諸氏の投稿をお願いします。特に各委員会の活動の記事を紹介では組合で長らくお世話になった鈴木さんを選びました。同氏は皆さまに承知のように表面に出ないで私達につくしてくれた人です。

○・四月にもお願い致しました。

○・本年は第一回の造園施工管理技士の誕生の年になります。同氏は皆さまに承知のように表面に出ないで私達につくしてくれた人です。

○・昭和51年度の経営事項審査は1月12日から受付開始とのことです。（神代生）

【3面からつづく】

本と太の間が八メートルありまして、この太と木の間というものは何も用がないから、樹を広くしたらどうか、ということを、私、泡に言ったことがあるんですよ。それから街路樹とやしがあるでしょう。この西祖は中野区ですよ。歩道の全幅をはかるために、ガードレールをやった わけですね。ところが、当時の上区長はガードレールのかわりにツツジを植えたんです。費用は二番もかかる。安らぎの場所が出てきたということで、地元に浸付たんですね。それが最初で、それから道に広がりつつあるんです。そういうかくれた区長がいたということで、私は特に上山さんには敬意を表したいと思う。

堅田　あれは日ノ出なんですね。だから、みどとに真っ赤に花がついたわけだね。

新堀　尾崎記念館のまわりは、それから、先ほど菊岡先生から調和というお話がでましたけれども、私も造園屋の はしくれであって、調和ということがいかに大事であるかということを考。最近の問題でいうと、国会図書館の黒松、あれはが植えたんですよ。黒松は公害に非常に強いということで、皇居前広場の黒松が枯れたりして、驚いたことがあるんですが、私は街路 として黒松がいいと。調和というと、前に皇居なんですね。ですから、最高裁判所すはあの通園工事なんかも、黒松でやったんですが、牢屋みたいな建物になっちゃってね。

新堀　尾崎記念館のまわりは、皇居の表松の種が飛んできて、生ばえしたんですよ。それから、三年ぐらいちょっとした島があるんですね。それも、松の森をつくるという設計をやったんですよ。ところが、上司からは公害に強いからそのままにしなさいと言われた。それで、現在のマテバシイの森に変わってるわけだ。本来ならば、国立劇場、最高裁判所、三宅坂、尾崎記念館の土手まで黒松をやりたかった。

彼岸花エピソード

新堀　それに関連して自慢話がありますよ。三宅坂の緑の島、という意味を私は出してますけれども、あそこの下へ彼岸花を、皇居の土手は彼岸花で真っ赤でしょう。あれをまねして、白の彼岸花を植えて、やろうと思って、やったら、咲いたやつは青色。（笑い）いわゆるショウキランなんですよ。それから、街路樹はその桝以外に動くことができないんですよ。プラタナスの桝は、それが枯れた場合、またプラタナスを植える。そうすると、前にいた居住者が養分をみんなとっているから。樹種の変更というのはなかなかむずかしいんで、土方ほうを変えてしまわないと、これはよくならないんじゃないかという気がしますね。何としても、その工夫に食べるとろがないんだから。ほかに伸びていくところがないんだから路線をつくる場合、道路工事の一部として、客土というものを含んだ事にしていたかと、非常にいいんじゃないか、いまはせ口点ないかな。私は、家庭の花として、雑誌に書いてますよ。雑誌が出来よ。それを、当時の佐藤人事課長が見られて、調査された。植物学者ですね。珍しいということでしょう。この西祖は中野区ですよ。歩道の全幅をはかるために、ガードレールをやった わけですね。ところが、当時の上区長は献上として、あそこに植えてありますから」という答えがきたわけ。やっぱり見てる人は見てるんだ。

司会　けがの功名ですな。

新堀　佐藤先生は「赤と白、三宅坂の黄色と、この三種が彩りを導うだろう。どこのどうちゃらかがこういうことをやったんだ。に、くしいことをやった」と、ある

菊岡嘉子氏

右から高原氏、北見氏、宮崎氏

堅田　並木をつくることは、そんなにむずかしい問題じゃないんですけれども、要は客土。新しい部として、客土というものを含んだ事にしていたかと、非常に

司会　たいへんむずかしい問題のつもりでいたんですけれども、どうも。

問題点をさがせば

次に、並木をつくるときの苦労談なについて、専門家の堅田さんあたからひとつ。

堅田　並木をつくることは、そのうちの一つ。

司会　たいへんなことですよ。

堅田　並木をつくるときの問題点は、ほとんどが、根の問題ですね。

司会　根ですか。

堅田　根ですね。根の問題ですね。根の問題ですね。